

令和5年度研究実施結果に係る中間・事後評価結果

1. 日時：令和6年6月7日(金) 10:15~16:00

2. 場所：福岡県工業技術センター

3. 研究課題評価委員（敬称略）

仲 孝幸	公益財団法人 飯塚研究開発機構 テクニカルコーディネーター
藤本 潔	公益財団法人 北九州産業学術推進機構 グリーンイノベーション推進本部 産学連携センター 研究支援グループ統括部長
森 直樹	九州工業大学 次世代軟磁性材料社会実装推進センター 特任教授
寺島 祐二	株式会社 久留米リサーチ・パーク テクニカルコーディネーター
古川 勝彦	九州大学 学術研究・産学官連携本部 教授
高倉 剛	公益財団法人 福岡県産業・科学技術振興財団 産学コーディネータ
植村 聖	国立研究開発法人 産業技術総合研究所九州センター 所長

4. 評価結果：事後評価 4課題（課題評価結果一覧(事後評価) 参照）
中間評価 2課題（課題評価結果一覧(中間評価) 参照）
※FS・若手研究3課題は評価対象外

5. 講評(要約)

- いずれの課題も内容が深く、わかりやすいプレゼンであった。リサイクルに関しては、プラスチックだけでなく繊維分野においても社会ニーズが高い。また、金属積層造形は難しい技術であり、まずは簡単な用途から、熱流体は有機溶媒・塗装技術などへの適用も検討してはどうか。一方、技術開発だけにとどまらず、福岡県工業技術センターとしての販促ツールへの取り組みも意義がある。
- AI活用を含む課題が3件あり、まだ企業ニーズに直結するケースではないが、今後確実に結びつくと予想する。その際、各研究は企業支援のためだけでなく、自分たち研究職員のためにもなり、研究業務の効率化等で余ったリソースを別の業務へ活用することが可能になる。また、販促ツールや繊維関連課題など、研究開発だけでなく販売までを見据えた幅広い支援を目指す点は、従来の公設試の活動を越えた、非常に有意義な試みと思われる。
- いずれの課題も非常にレベルが高く、九州の公設試をリードする存在となっている。今後、レベルを維持、さらに向上させる上では、他機関も同様だが人材確保が大きな課題と言える。学生インターンシップや小中高校へのPRなど、中長期的な取り組みが有用。また、AI技術などの社会的共通課題に関しては、多くの機関が取り組んでいるところであり、他との連携拡大が非常に重要となる。

- 進捗には多少ばらつきがあるが、いずれの課題も研究目的が明確でチャレンジ性もあり、早期の社会実装が期待される。今後県内だけでなく国内全体へと適用範囲を拡大してほしい。また、中間評価課題に関しては、研究途中でも PR し、コンソーシアムメンバーを拡大してはどうか。繊維や販促などの FS・若手研究では、例えば研究会組織により企業ニーズが取り込める体制が有用。さらに、“研究開発で得られたデータをどう分析し、どう活用するか”への注力も望まれる。
- いずれの課題も企業ニーズを掴み、丁寧に対応しており、社会実装への意識が高いことに感心した。ただし、少人数なのでやむを得ない部分があるが、折角生み出された成果の適用範囲が限られるケースが多い点があったいなと思われ、より広い活用も検討してほしい。また、各研究職員の意識だけでなく、全体的にどのような方向を目指すのかの組織的戦略にも期待する。
- 自社ブランドや県ブランドなどをはじめとしたブランド確立や独自性が重要であり、その中で福岡県工業技術センターならではの取り組みや、他には真似できない独自技術を今後さらに伸ばしてほしい。また、環境負荷低減、工程短縮などに資する画期的な取り組みにも期待する。
- 各課題の報告を聞いて、川上から川下まで幅広く取り組んでいることがよく理解できた。例えば食品や IoT などに関する研究開発にはマンパワーも必要であるが、私どもの機関でも全国組織を有して取り組んでいる。それらとの広範で積極的な連携により、研究開発を進めてほしい。

以上